

一步一步に平和の願い



イラスト、似顔絵は千葉宗夫さん（青梅市在住）に描いていただきました。



千葉さん

核兵器
禁止条約

- 条約採択賛成国 122か国（2017年） ○ 署名国 94か国 批准国 73か国
- 日本政府に条約参加を求める意見書を採択した自治体 717自治体
（3月25日、青梅市が採択しました。715番目です）（2025年4月7日現在）

西多摩平和行進

2025年6月
国民平和行進
西多摩実行委員会
問合せ・連絡先
0428-24-8644

原水爆禁止平和大行進 西多摩コース 7月17日から

檜原村甲武トンネル
(山梨県より引き継ぎ)
7月17日(木)
集会 13時頃
出発 13時30分

檜原村役場
7月17日(木) 17時 着
7月18日(金)
出発式8時50分
出発 9時

**あきる野市役所
五日市出張所**
到着 7月18日(金)
11時30分(昼食)
出発 13時00分頃

日の出町役場
7月18日(金)
14時30分頃 到着
7月19日(土)
出発式9時
出発 9時10分

※ 17日甲武トンネルまでJR武蔵五日市駅前からバスが出ます 下記参照

奥多摩町役場
7月17日(木)
集合 13時15分
出発 13時40分

福生市役所
7月19日(土)
12時頃到着
(約15分休憩)
出発 12時15分

福生公園 集結集会

7月19日(土)
到着 12時30分頃
(昼食休憩)

**あきる野
市役所本庁舎**
7月19日(土)
10時35分 到着
出発 10時50分

**JR御嶽駅そば
東峯園・駐車場**
7月17日(木)
16時45分到着
7月18日(金) 集合・
出発式 9時50分
出発 10時10分

羽村市役所
7月19日(土)
10時30分頃到着
(約15分休憩)
出発 10時50分

瑞穂町役場から
延べ6・6名

武蔵野台
東公園
(10分休憩)

瑞穂町役場
7月19日(土)
集合・出発式
10時30分
出発 10時40分

青梅市役所 7月18日(金) 13
時10分頃到着 7月19日(土) 集
合・出発式8時45分 出発 9時

● 甲武トンネルまでのバスの運行
12時10分 出発 渡辺090-5502-6194

礼文島を出発 各自治体を訪れ 懇談・協力要請：

礼文島スタートから1週間、毎日の活動の中心は、自治体巡りとその街の中心街で行う平和行進、そして昼間や夕方の小集会です。すでに、1～3か月前に各自治体へ資料は送付され日程も確認されているため、各自治体を訪れてもスムーズに懇談が出来ます。懇談は、こちらから側から核兵器廃絶、被爆者支援、8月の原水禁世界大会成功などへの協力と募金、ペナントへの署名、核禁署名など協力要請です。首長、議長、教育長の3者を必ず回るため、時間がかかり、一日に訪れる自治体数は2か所がせいぜいです。

懇談では、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区への攻撃で「犠牲になるのは市民や子どもで心が痛む」「ノーベル平和賞について「あなた方草の根の活動が素晴らしいね」「受賞の意味をもっと子供たちまで広げ話題にしたい」また平和行進について「休むことなく続けられていることに敬意をもっている」「継続こそ力ですね」と、「この街はどうですか」「昨夜何を食べましたか、そばがおいしいですから」などの話で盛り上がることも。

役所そばで待機していた行進参加者はゼッケンを付けたりのぼり旗を広げ準備が整うと行進が始まります。行進旗を前に参加者は思い思いに並んで歩きはじめます。宣伝カーから流れる歌やピース・コールに合わせて声を出したり手を振ったりと賑やかな行進です。私は持参したのぼり旗を背負子につけ、担いでの行進です。行進警備の警察官が「すいぶん高くまで伸びるんですね。気を付けてよろしくお願いします」と声をかけてきました。

天塩川、石狩川、空知川などいくつもの川を見てきました。どの川も雪解け水で川幅いっぱい、大きくゆったりと広がって流れる様は迫力があります。地元の人の話では「この川の水を田に取り込む作業はもう始まっている」と。米どころ北海道を支える“命の水”、たどれば雪の力の凄さを感じました。

5月17日に札幌到着、3日間市内行進と自治体訪問。21日、小樽から横丹方面の海沿いを歩き、31日には函館に着きます。ニュースが配られる頃は、青森県内を歩いています。



通し行進
わたまさ通信



写真上から利尻富士と鯉のぼり、稚内で行進後集合、旭川市内の行進、江別市の行進には高校生4人の飛び入り参加も

忘れられた被爆者 朝鮮人が背負った原爆の影

有馬 秀樹
青梅市

被爆80年によせて

広島と長崎の原爆投下では、多くの朝鮮人も被爆しました。日本の植民地支配下、彼らは徴用や強制労働によって日本本土に連れてこられ、広島に約3万人、長崎に約2万人が暮らしていたとされます。原爆により広島で約2万人、長崎で約1万人が命を落とすと推定されますが、名前すら記録に残らず、多くが歴史から忘れ去られてきました。

生き残った朝鮮人被爆者も、戦後は「敵国人」として扱われ、被爆者手帳の交付を拒まれたり、医療や補償を受けられなかったりと、日本社会で二重三重の差別に苦しみました。韓国に帰国しても、原爆に対する無理解と偏見があり、苦しみを語れぬまま病と貧困に耐え続けた人々も少なくありません。これらの体験はまさに深い絶望の象徴でした。

しかし、こうした沈黙の中から少しずつ希望が芽生えていきます。1980年代以降、朝鮮人被爆者や支援者が声を上げ始め、証言活動や記録の発掘が進みました。韓国原爆被害者協会の設立、在外被爆者への支援を求める訴訟、そして広島平和公園への韓国人慰霊碑の正式設置など、歴史の中で見えなかった存在が少しずつ可視化されていきます。

植民地、原爆、差別という三重の苦難を生きた彼らの姿は、深い絶望の中にあっても、人

間の尊厳と平和への願いを失わなかった証です。その記憶を継承し、核のない未来を目指すことこそ、私たちがともに育むべき希望です。

【補足】なぜ今まで問題にならなかったのか？

朝鮮人被爆者の問題が長年注目されなかったのは、いくつかの要因があります。まず、彼らは日本の植民地支配下で強制的に動員された存在であり、戦後も差別や偏見の中で「見えない存在」とされてきました。日本では「原爆＝日本人の悲劇」とする被害者意識が強く、加害の歴史や他民族の被害には目が向きにくかったのです。

また、多くの朝鮮人被爆者は帰国後も、社会の無理解や偏見から体験を語れず沈黙を強いられました。日本の被爆者援護制度も在外者を対象外としており、法的・制度的な支援も届きませんでした。さらに、日韓の政治的対立や外交上の配慮も、長年この問題をタブー視させる要因となりました。

※ 前回のチラシの被爆80年によせての記事で、池田孝信さんは羽村市在住でした。お詫びして訂正します。